

第9回アジア地域原子力協力国際会議の結果について

平成10年3月10日
科学技術庁原子力局

今般、標記会議が以下のとおり開催されたところ、結果概要は以下のとおり。

1. 出席者

(別紙1)の通り。

2. 日程

○本会議：3月3日(火)

○作業グループ会合：3月4日(水)・5日(木)

プログラムは(別紙2)の通り。

3. 結果概要

(1) 本会議

各国の参加者代表により、「アジア地域協力の新しい展開をめざして」とのテーマに沿って、各国の原子力開発利用の現状、将来展望及び地域協力に関する考え方についての報告が行われた。

報告に続き、協力の更なる展開についての討議が行われた。会議主催国の日本は、本会議を地域協力の具体的な進展に合わせた形態として発展させることを提案し、各国代表は、これに対しコメントや意見を表明した。これらの意見等を踏まえた上で、引き続き、参加国間で検討を進め、第10回会議において、本会議の今後の在り方について再度討議し、合意形成を目指すこととされた。

各分野の地域協力が前回の会議から着実に進展していること、本会議は地域振興のための協力活動として有効な枠組みであることが確認された。

参加各国は、本地域の中長期的な経済発展と地球規模の環境問題を考慮すると、原子力開発利用が重要な意義をもつことを認識した。かかる視点を踏まえつつ、将来に向けた協力活動の方向性について議論された。また本会議は、参加各国が相互に原子力平和利用活動に関する理解を深め、信頼を醸成し、さらに具体的協力を推進していくフォーラムとして、有効であることを確認した。

(2) 作業グループ会合

作業グループ会合では、各国参加者により、以下のような議論が行われた。

①分野別セミナー・ワークショップの開催国について

各分野毎のセミナー・ワークショップの次回開催国について、以下のとおり確認された。

- | | |
|----------------|---------------------------|
| ・研究炉利用 | ：インドネシア |
| ・放射線・R1の農業利用 | ：マレーシア |
| ・放射線・R1の医学利用 | ：インドネシア |
| ・パブリック・アクセプタンス | ：中国 |
| ・放射性廃棄物管理 | ：タイ |
| ・原子力安全文化 | ：マレーシア（1999年、オーストラリアとの共催） |

②将来の協力の方向性について

参加各国は、アジア地域原子力協力国際会議の枠組みの下で実施される活動の方向性及び方策について議論を行い、以下の共通理解を得た。

i) 参加国について

地域内の新たな参加国を加えることについては、今後検討していくこととなった。第一段階として、IAEAのような国際機関を招待することが提案され、次回会議にIAEAを招待することが合意された。

ii) 開催国について

本会議を日本以外の参加国で開催することが日本より提案された。各国は、第10回会議までにこの提案について検討し、回答することとなった。参加国は、第10回会議においてこの問題の結論を得ることに合意した。

iii) 新たな協力分野について

人材及び教育の分野における協力の重要性について、各国の共通理解が得られた。また、新規プロジェクトの導入プロセスについての議論が行われ、特に、IAEA等における活動との重複がないように留意すべきであることが確認された。

iv) 会議の運営管理について

各国コーディネーターの役割等、協力活動の質を向上させるための運営、管理の仕組みについて、意見交換を行い、現行の協力分野のセミナー・ワークショップの運営、管理面での改善を含め、今後具体的検討を進めることとなった。

第9回アジア地域原子力協力国際会議における各国代表の講演の概要

① インドネシア

- ・原子力の受入れ環境形成のためには、原子力の恩恵を理解できる放射線の農業利用等が重要。
- ・原子力発電の中長期的導入のためには、資金確保、PA、人材養成等が必要
- ・将来の協力分野として、放射性廃棄物管理が重要。

② 韓国

- ・地球温暖化防止のためには、経済的な原発の開発、利用が必須。
- ・安全確保のための地域協力は重要。
- ・放射性廃棄物及び原子炉解体に関し、日本の技術協力を期待
- ・アジア会議の枠組における協力のより実質的な活動を期待

③ マレーシア

- ・原子力科学技術と国内推進制度(税制、融資、基幹センター)が重要。
- ・原子力技術研究所に産業技術振興のため、首相がテクノパークを開設。
- ・原子力科学技術の推進には、人材、施設等の基盤整備が重要。

④ フィリピン

- ・アジア会議の枠組に基づく協力をレビュー
- ・温暖化防止の努力と原子力進める上で安全とPAは重要
- ・今後の協力テーマとして、安全、透明性向上、規制情報交換、緊急時対応、地域廃棄物センターを提案。

⑤ タイ

- ・原子力委員会及びオンガラク原子力研究センター建設の現状。
- ・放射線利用、研究炉による研究開発が進展。原子力発電は評価中。

⑥ ヴェトナム

- ・原子力発電は妥当なエネルギー・オプション。2010年以降原発導入準備。
- ・原子力安全、人材養成、PA及び国際協力が重要。

⑦ 臺灣

- ・原子力開発利用の状況及び地域協力の現状。
- ・アジア・太平洋地域の科学技術協力の重要性。
- ・アジア会議の発展のための議論を歓迎し、参加国、既存の他の協力枠組との関係等の検討の必要性に言及。

⑧ 中国

- ・中国の原子力発電(2010年:2,000万kW、2020年3~4,000万kW)と核燃料サイクル開発(濃縮、加工、再処理、廃棄物プロジェクト)の現状及び今後の展望。

第9回アジア地域原子力協力国際会議参加者

○オーストラリア

ヘレン・ガーネット、ANSTO(豪原子力科学技術機構)理事長
 G. L. ハント、在京豪大使館参事官
 アラン・グレイ、在京豪大使館参事官(産業、科学、観光担当)

○中国

陳 肇博(チェン・ツァオボ)、CNNC(中国核工業総公司)副總經理
 李 東暉(リ・トンヒ)、CNNC国際合作局副局長
 高 軍(カオ・チュン)、CNNC国際合作局科技合作一処副処長
 馮 毅(フエン・イー)、CNNC国際合作局科技合作二処副処長
 任 屹龍(レン・イーシャ)、CNNC国際合作局科技合作一処項目官員

○インドネシア

イヨス・R・スプキ、BATAN(インドネシア原子力庁)長官
 アザール・ジャロイス、BATAN次官
 バクリ・アルビー、BATAN次官

○韓国

セオユン・キム、KAERI(韓国原子力研究所)所長
 ジョンスー・ウー、KAERI原子炉システム管理部長
 シンウー・リー、都市農村振興庁国立農業科学技術研究所上級研究員

○マレーシア

ロウ・ヒェンディン、科学技術環境大臣
 ジニ・ワット、科学技術環境大臣第一秘書官
 アーマド・ソブリ・ハジ・ハシム、MINT(マレーシア原子力庁)長官
 アドナン・カリット、MINT企画・国際部長

○フィリピン

ウィリアム・G・バドリナ、科学技術大臣
 アルマンダ・M・デラロサ、PNRI(フィリピン原子力研究所)所長代行
 エディルベルト・A・キャバルフィン、PNRI原子力事業・訓練部長

○タイ

クリエンサク・バドラコム、OAEF(タイ原子力庁)長官
 バトム・ヤムカテ、OAEF次官

○ベトナム

グエン・ティエン・グエン、VINATOM(ベトナム原子力委員会)委員長
グエン・トロン・トラン、VINATOM人事総務部長

第9回アジア地域原子力協力国際会議プログラム

日 時：平成10年3月3日（火） 10:00～17:00

場 所：日本海運倶楽部（千代田区平河町）2階国際会議場

テーマ：「アジア地域協力の新しい展開をめざして」

【開会セッション】

○議長：依田直 原子力委員会委員

10:00～10:10 主催者挨拶 谷垣禎一 国務大臣科学技術庁長官、原子力委員会委員長

10:10～10:20 準備委員長挨拶 田畑米穂 東京大学名誉教授

【講演セッション】

○議長：外門一直 電気事業連合会副会長

10:20～10:40 インドネシアからの発表

イヨス・R・スプキ インドネシア原子力庁長官

「21世紀初頭の原子力発電導入及び原子力技術開発を
支援する国際協力」

10:40～11:00 韓国からの発表

セオユン・キム 韓国原子力研究所所長

「地域協力の新段階に向けて」

〈休憩〉

○議長：中里良彦 日本電機工業会会長

11:15～11:35 マレーシアからの発表

ロウ・ヒェンディン マレーシア科学技術環境大臣

「マレーシアにおける原子力技術開発25年 ― 概観」

11:35～11:55 フィリピンからの発表

ウィリアム・G・パドリナ フィリピン科学技術大臣

「アジアの持続的開発に向けて ― 地域原子力協力の役割」

11:55～12:15 タイからの発表

ポアンティ・テチャパイブーン タイ科学技術環境副大臣

「タイにおける原子力平和利用の新しい展望」

【欠席のためクリエンサク・パドラコム

タイ原子力庁長官代読】

〈昼食〉

○議長：吉川 允二 日本原子力研究所理事長

13:50 ～ 14:10 ヴィエトナムからの発表

グエン・ティエン・グエン ヴィエトナム原子力委員会委員長
「ヴィエトナムにおける原子力発電導入見通し」

14:10 ～ 14:30 オーストラリアからの発表

ヘレン・ガーネット

オーストラリア原子力科学技術機構理事長

「オーストラリアにおける最近の原子力科学技術開発と
地域協力」

○議長：沢田 仁 国際協力事業団副総裁

14:30 ～ 14:50 中国からの発表

チェン・ツァオボ 中国核工業総公司副総経理
「中国における原子力の新展開」

14:50 ～ 15:10 日本からの発表

藤家 洋一 日本原子力委員会委員長代理
「21世紀人類社会と原子力開発」

〈休憩〉

【意見交換セッション】

○議長：遠藤 哲也 原子力委員会委員

15:25 ～ 17:00 ・各国発表への質疑応答

・原子力委員会原子力国際協力専門部会の検討状況及びアジア
地域原子力協力国際会議の新たな展開について

（植松 邦彦 動力炉・核燃料開発事業団副理事長、原子力委
員会原子力国際協力専門部会長 より発表）

・意見交換

・その他